

「井田町町内会」町名の由来

～根源は昭和初期の大工事～

私たちの井田（せいでん）町町内会は下伊福上町の石井中学校以東と下伊福 1 丁目の北半分の範囲です。

広辞苑で「井田（せいでん）」を引くと『夏・殷・周 3 代に施行されたと伝えられる田制。開墾した土地を井字形に区画し、分配したものと思われる。「孟子」によれば、周では 9 等分した土地の中央の 1 田を公田とし、周囲の 8 田を 8 家に分け、8 家共同して公田を耕し、その収穫を租とした。井田法』とあります。これは紀元前 8 世紀に中国で実施された農租税法のようです。

日本では 1670 年頃、岡山藩主池田光政が津田永忠に命じ、和気郡友延村（閑谷学校領）を開墾、上井（かみい）地 9 町 7 畝と下井（しもい）地 9 町 3 反の井田 2 区画を設けました（池田家履歴略記より）。

これが唯一、日本で実施された井田法のようです。

…岡山後楽園の「沢の池」東隣にある「井田（せいでん）」はこのミニチュアです。

さて 私たちの井田町名の由来はどこからきたのでしょうか

昭和 6 年から 12 年にかけて都市計画法に基づき「三門～原島道（現国道 180 号）」が整地されたのが起源のようです。

整地前は車が通れるような道路は無く、現 国道 180 号北側にリヤカーがやっと通れる 1 m 幅程の農道と農業水路が東西方向にありましたが、これより南は一面田畑（たんぼ）と あぜ道でした。

そこに前述の三門～原島道の 22m 幅幹道計画が持ち上がり、これに農地所有の地主が整地組合（組合長 片山 忠次 ほか 組合員 15 人）を結成し、行政の計画に道路用地に加え、南側の農業用地の地割整地まで協力しました。

その広さは東西約 480 間、南北 110 間余地と記録されており、現在地に置き換えると東西は富町 1 丁目 鈴木石材施工店西側南北道～三門駅西側南北道 間と 南北は石井中学校南側東西道～国道 180 号少し北（約 20m ほど北側まで）間に囲まれた範囲に相当すると考えられます。

当時は一面が農地で吉備線三門駅（明治 37 年開業）から石井小学校が障害物なく見えたそうです。

整地組合員は地割・道路用地など大胆に実行するため、自分の土地を提供 或は組合員間で農地を差し替えるなど大変な計画だったようです。

画期的なこの建設工事の計画・造成にあたり、整地組合員は「和気郡友延村の井田造成」を十分に調査、その結果に基づき計画、農地を地割・区画整地したようです。

それは約 5m の道路(現道路位置・幅と同じ)を井田^(せいでん)のように平行で等間隔に整然と配置したのです。

整地当時の住居表示は「巖井」で、非常に広範囲域でした。

建設工事が竣工した時、整地組合が地割・整地したこの地区の業績をたたえて、「巖井」の中の特別地区に指定、「巖井井田町」としたようです。

国道北側にその竣工記念碑(右写真)が建っています。
記念碑裏面に「整理後 町名 巖井井田町一、二、三丁目と改称」と刻み込まれ、後世にその名を残しています。

なお 巖井井田町一、二、三丁目は住居表示が下伊福(一部富町)に変わりましたが、地番として残っています。

…別冊「井田町のルーツ」の 5/6 頁 ブルーマップ(岡山地方法務局 閲覧資料より)

に地番 巖井井田町一、二、三丁目を掲載していますので参照ください…



昭和 40 年まで巖井地区内の町内会に「下伊福町内会」がありましたが、昭和 41 年に 4 分割され、「下伊福東町町内会」「下伊福本町町内会」「下伊福西町町内会」と「井田町町内会」に分けられました。

「井田町町内会」は地理的には他の下伊福 3 町町内会の北側にあり、「巖井井田町の中央部(二丁目と三丁目の東部)」に位置していることから“巖井”をとり「井田町」としたようです。

昭和初期に整地組合が築いた「巖井井田町一丁目、二丁目、三丁目」の町名。その名残として名付けられた「井田町町内会」の町名。

今後、「井田町町内会」が続く限り、その由来を次世代に伝承して行くことになります。

(一部修正)2010. 3. 22

2006. 10. 28

文責 立川 佳久

<写真などで当時を推測 説明>

次ページに「巖井井田町一・二・三丁目配置(昭和 22 年撮影 航空写真)」と「同左写真に石井中学校と井田町町内会範囲を表現」 および 備前市穂浪友延新田の

江戸期「井田^(せいでん)の絵図」と現在の「井田^(いた)地区(航空写真)」を表し、以下に対比して 推測説明します

◎ 左上は昭和 22 年秋米国軍撮影の航空写真(国神社様提供)です

三門～原島道(現国道 180 号)が昭和 12 年に竣工して 10 年経過した
終戦後の巖井井田町一丁目、二丁目、三丁目の姿です
農地に民家がかかり建てられていることが判ります

◎ 左下は同上写真に石井中学校と井田町町内会範囲を表現しています

昭和 22 年 4 月に新生石井中学校開校、左上写真に初期校舎が写り、
グラウンド造成中で道路が消えかけている状態が見えます
当時の北門および国道 180 号～北門間の道路は現在無くなっています

○ 右上は穂浪友延新田に造成した「井田の絵図」です(池田家履歴略記より)

上井^(かみい)が北(山側)、下井^(しもい)が南(海側)に配置されています

○ 右下は平成 13～14 年頃の井田^(いた)地区 航空写真です

(備前市歴史民俗資料館平成 14 年紀要より)

井田遺構地および周辺に民家がかかり建てられています

都市計画「三門～原島道整備」に協力した整地組合は穂浪友延新田「井田^(せいでん)」を調査し、農地の地割計画に反映したと聞きました
上記資料から 地割された状況を以下に推測します

推測：1…巖井井田町二丁目・三丁目 と 井田^(せいでん) 上井^(かみい)

穂浪友延新田 井田 上井に似た長方形の巖井井田町二丁目(井田 1 区画相当)、
三丁目(井田 1 区画相当)が 2 区画連続配置している状態に見えます

即ち、東西は等間隔に 3 分割×2 区画=6 分割になっています
また 南北は吉備線が斜めに横切っているのをなんとか 3 分割しようと努力
している状態が伺えます

推測：2…巖井井田町一丁目 と 井田^(せいでん) 下井^(しもい)

巖井井田町一丁目は井田下井に似せた正方形にしようと試みている様子が
伺い知れます

北東に傾斜配置している三門～原島道およびこの幹道から南東に傾斜配
置している幅広の枝道(岡山駅西口・石井小学校への接続道)が地割の障害となる
中で、苦心の地割・造成と見受けられます

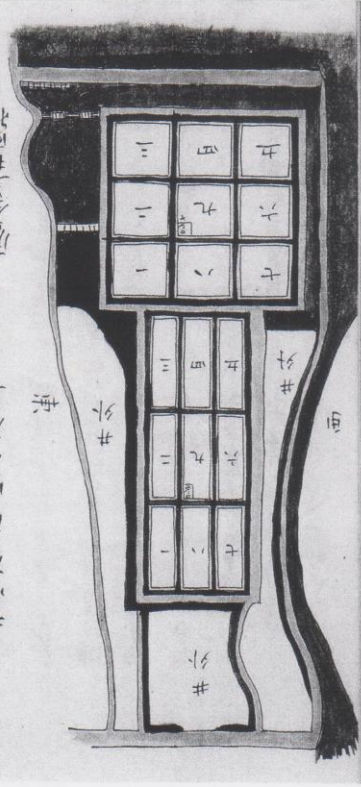
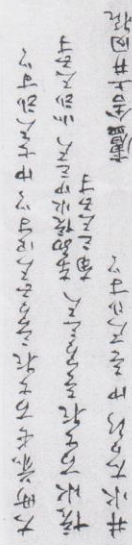
終戦後（昭和22年）
蔵井井田町一丁目・二丁目・三丁目の写真



同上写真に石井中学校と井田町町内会範圍を表現

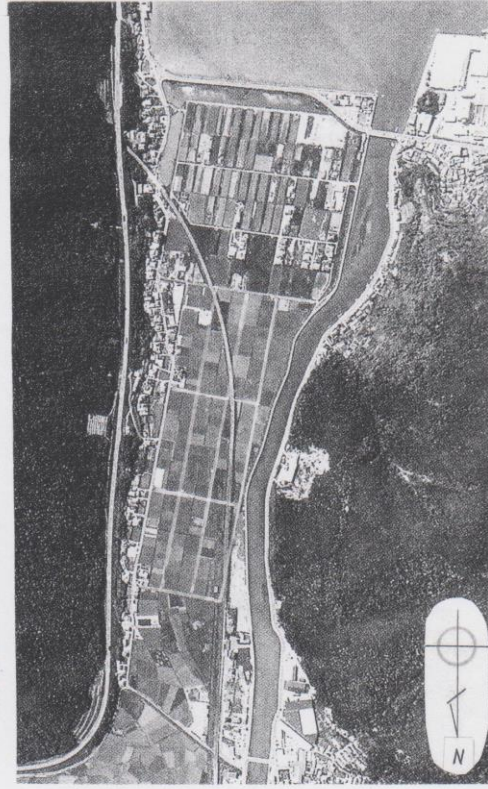


井田(せいでん)の絵図—池田家履歴略記より—



上井カミイ(北側の井田のこと) 9町7畝 と 下井シモイ(南側の井田のこと) 9町3反

—より要紀年14平成資料館市民歴史市前備—「ん(いでい)田井」—写真景全の地区田井現—



井田町の由来

私たちの町内会は井田(せいでん)町町内会といます。現在の下伊福上町の石井中学以東と下伊福1丁目北半分です。広辞苑で「井田」を引くと「夏・殷・周3代に施行されたと伝えられる田制。開墾した土地を井字形に区画し、分配したものと思われる。『孟子』によれば、周では9等分した土地の中央の1田を公田とし、周囲の8田を8家に分け、8家共同して公田を耕し、その収穫を租とした。井田法」とあります。紀元前8世紀に中国で実施された農租税法のようです。

日本では1670年頃、岡山藩主池田光政公が津田永忠に命じ、和氣郡延友村(岡谷学校領)を開墾、9町7畝と9町3反の井田2区画を設けました(池田家履歴略記)。これが日本における井田法実施の唯一のものでした。

さて私たちの井田町名のルーツはどこからきたのでしょうか。

昭和6年から12年にかけて都市計画法に基づき「三門く原島道(現在の国道180)」が整備されたのが起源のようです。整備前は現在の国道北側に1メートル幅程の

農道と農業水路、以南は面田んぼにあぜ道でした。

そこに前述の三門く原島道(22メートル幅)の幹道計画が持ち上がり、これに農地所有の地主さん達が整地組合(組合員16人)を結成し、行政の計画協力をあたりましました。

その広さは東西約480間、南地110間余と記録されており、現在地に置き換えると東西は三門駅西道路※バス停下伊福1丁目東道路間、南北は国道1

ルーツ

80く石井中学南側道路の範囲に相当します。

当時は一面農地で吉備線(明治37年竣工)三門駅から石井小学校が見えたそうです。

整地組合員の方々は自分の土地を提供、あるいは組合員間で農地を差し替えるなど大変な計画だったよう

です。

画期的なこの行事の中に津田永忠の井田造成に思いを馳せたのでしょうか。その整地内に5メートルの道路を基盤状に配置したので

す。当時の住居表示はすべて「巖井」。巖井は非常に広範囲でしたが整地区域が竣工した時、整地組合の業績をたたえて「巖井」の中の特別地区とし「巖井井田町」としました。

国道の北側に竣工記念碑が建っています。亭真。裏面に「整理後町名巖井井田町1、2、3丁目と改称」と刻み込んであります。

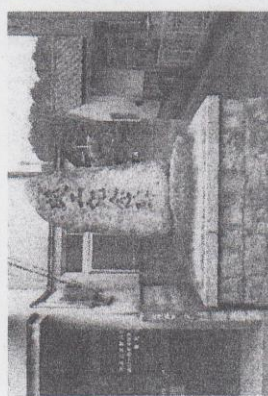
巖井地区の町内会に「下伊福町内会」がありました。昭和41年に4分割され、「下伊福東町内会」「下伊

福本町町内会」「下伊福西町町内会」と「井田町町内会」に分離されました。

「井田町町内会」は地理的には他の下伊福3町町内会の北側。ちょうど「巖井井田町」と同じ地域となるこ

とから「巖井」をとり「井田町」としたようです。

昭和初期の整地組合が築いた「巖井井田町」。その名残となっている「井田町町内会」。今後、そのルーツを若い人たちに伝承していくこととなります。(井田町町内会副会長・立川佳久)



【備考】 1.上の記事は山陽新聞マイタウン岡山(岡北版)2006年(平成18年)11月号に掲載されました。

2. このマイタウン岡山(岡北版)は現岡山市北区範囲のローカル情報誌(クイックB-4)として山陽新聞に折り込んでいました。2007年1月号が最後で、現在はなくなっています。

3. 記事中の※印：本掲載後、法務局のブルーマップ(地番表示)において、巖井井田町の東端はバス停下伊福一丁目東から東へ約200m位置の南北道であることが判明しました。ここに訂正します。